



写真-1 海の観察会はじまりの地 加太海岸・城ヶ崎にて(2011)

### はじめに

今年25周年を迎える「海の観察会」。年2回でスタートしましたが、現在は8グループで年間約40回の観察会を実施しています。四半世紀をふりかえるとともに、これからのことを考えてみたいと思います。

### 海の観察会

1995年にスタートした「海遊館自然観察会」(海遊館と共催)のスタッフが、自然の海での観察会をしたいと1996年10月に海の観察会が始まりました。当時のリーダーは中野勝弥さんと故尾鼻明子さん。インスト修了生を中心にスタッフ30名、参加定員100名という大規模な観察会を加太の城ヶ崎で開催しました。「海の生き物」でなく「海」の観察会というのが尾鼻さんのこだわりで、第1回の講師の池辺進一先生は今でも来てくださっています。少しずつ新プログラムに挑戦し2000年に「近木川のカニつり」と「海藻おしば」、2004年に「長松海岸の磯あそび」と「貝がら拾いと万華鏡づくり」、2006年に「男里川河口干潟」、2010年に「ウミホテル」、2011年に「大阪湾シュノーケリング

体験」、2012年に「豊国崎・東川河口の生き物調査」、2013年に「甲子園浜」、2014年に「尾崎海岸のアマモ場調査」等を実施し、大阪湾のいろいろな海辺をめぐるという現在のスタイルができてきました。また、連続講座「海辺の自然・インタープリター講座」を2004年～2012年に計4回実施し、様々な新しい活動やつながりを生み出しました。これまで127回の観察会を実施、現在は年7回程度と無理なく継続していける規模に落ち着いており、様々な新しい活動を生み出す「おおもと」としての活動を続けていきたいです。

### チリモン自然観察会

2010年丸亀でのチリモンイベントの協力依頼を海の観察会で引き受けたことから、協会のチリモンがスタートしました。西田百代さんを中心に月1回のチリモン勉強会を継続し、対外自然協力隊による講師派遣が人気を博する一方、2012年からは「チリモン自然観察会」として観察会活動を始めました。2013年には、きしわだ自然友の会との共同で「チリモンモンスターWEBイン

表 海関係の観察会グループ

海の観察会 (1996年～)
堺浜自然観察会 (2011年～)
チリモン自然観察会 (2012年～)
大阪湾スナメリ観察応援隊 (2014年～)
砂浜観察会 (2014年～)
大阪湾ウミウシ観察会 (2015年～)
長松海岸自然観察会 (2018年～)
team.虹鰐 (2019年～)

タラクティブ図鑑」というWEBサイトを開発し、同時に作った「チリモン図鑑パンフレット」は増刷を重ね、これまでに15万部も配布したヒット商品となりました。2017年からは桑原香織さんを中心に、大阪府内全市区町村でのチリモン計画をスタートし、「大人向けチリモン」や「おんらいんチリモン」なども行いましたが、コロナの現状では室内プログラムが実施しにくい状況となっています。食育や漁業との関わりも含め、海から遠い地域で海を学ぶプログラムとしても優れていることから、これからも「一人でも多くの子どもたちにチリモン体験を」提供できるように、継続させていきたいと考えます。

### 堺浜自然観察会

国土交通省が堺港に建設した「生物共生型護岸(友海ビーチ)」に戻ってくる生き物をモニタリングする目的で、元事務局長の本多俊之さんの呼びかけにより、2011年に「堺2区自然観察会(現在の堺浜自然観察会)」が立ち上がりしました。春を告げるインガレイの赤ちゃん、大和川を遡上するシラスウナギ、35ミリもある巨大ヤマトシジミなど、たくさんの感動的な発見があ



写真-2 丸亀チリモン (2010)



写真-3 スナメリクルーズ (2014)

りました。この活動をきっかけに「大阪湾生き物一斉調査」に参加するなど、協会外の組織や団体との関係も一気に増え、2016年には手づくり郷土賞・奨励賞をいただきました。2013年からは近隣の「堺浜自然再生ふれあいビーチ」での観察会もスタートしましたが、2021年に友海ビーチが老朽化により立入禁止となりました。都会の近くで海の生き物とふれあえるため人気は高く、まだまだ増えるニーズに対していかにスタッフを集めていくかが課題です。大和川流域での活動連携や大量に漂着するゴミ集めなど、協会らしく都市と自然の関係を考える活動を続けていきたいです。

### 大阪湾スナメリ観察応援隊

2014年に「スナメリ探検クルーズ」を岡田浦漁協との共同でスタートしました。漁業体験のついでにスナメリ探しにも連れて行ってもらう人気プログラムですが、大阪湾に数十頭しかいないといわれるスナメリに出会うのは難しく、また漁船に乗せてもらうために助成金頼みとなることが悩みの種です。2020年以降はコロナで漁業体験が中止になり、再開のめどが立ちません。大阪湾における非常に希少でかつ象徴

的な生き物スナメリの存在を知ってもらうためのプログラムを今後も企画することとし、2021年には岡田浦での地引網漁を体験するプログラムを実施して、スナメリを含む食物連鎖や漁業との関係を考えていきます。

### 砂浜観察会

同じく2014年に「微小貝さがしサポート図鑑」というWEBサイトの開発を機に「微小貝プロジェクト」がスタートし、砂の中から微小貝を探し出すプログラムを中心に、工作や微小貝を指標とした環境調査など幅広く取り組みました。2020年からは「砂浜観察会」と改称して、貝だけではなく漂着物や砂浜の環境も含めたトータルな観察会を目指し、年8回程度の観察会が軌道に乗りつつあります。今後はWEB図鑑のリニューアルにより「砂浜観察サポート図鑑」を開発していきたいと考えています。

### 大阪湾ウミウシ観察会

2015年当時は、いつでもどこでどんなウミウシが見られるのかという情報がほとんどなく、たくさんのウミウシを確実に見せることが不可能でしたので、まずは生息状況の調査からス